

## 1 研究の概要

## (1) 研究テーマ

小・中学校の通常学級及び高等学校における全ての児童生徒が学びやすい授業づくりの在り方  
—「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業実践を通して—

## (2) テーマ設定の趣旨

## 〈小・中学校の通常学級及び高等学校の動向〉

平成24年12月に、全国の公立小・中学校の通常学級に在籍する児童生徒を対象とした「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」が文部科学省から示されました。この調査によると、小・中学校の通常学級において特別な教育的支援を必要とする児童生徒の割合は6.5%でした。また、この調査の協力者会議は、調査結果を受けた考察の中で、学校に求める児童生徒への支援として、「学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒を取り出して支援するだけでなく、それらの児童生徒も含めた学級全体に対する指導をどのように行うのかを考えていく必要がある」と述べています。例えば、「社会生活上の基本的な技能を身に付けるための学習を取り入れる、学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒が理解しやすいよう配慮した授業改善を行うなどの対応を進めていくべきと考える」と提言しています。

高等学校においても、中学校からの進学率が98%を超えている（平成24年度全国平均）ことから、発達障害に関する支援が必要な生徒が在籍していると推測されます。また、中学校の特別支援学級の生徒の23%が高等学校等（高等学校本科・別科、高等専門学校）に進学している実態もあります。平成21年8月の「高等学校における特別支援教育の推進について—高等学校ワーキング・グループ報告—」では、「高等学校に進学する発達障害等困難のあるとされた生徒の高等学校進学者全体に対する割合は約2.2%であった」と述べています。さらに、平成24・25年度、本センターで取り組んだプロジェクト研究「高等学校における特別支援教育の推進に向けて」では、全体の約20%の高校生が学習面に何らかの苦手さを抱えており、その苦手さは単一ではなく複数にわたっていることが明らかになりました。

## 〈「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業づくりの必要性〉

上記の動向から、小・中学校の通常学級及び高等学校において「障害の有無等にかかわらず、全ての児童生徒が学びやすい授業づくり」が求められています。近年、授業改善の方法として、「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業づくりの研究が全国的に取り組まれています。「ユニバーサルデザイン」とは、建築や製品のデザインに使われてきた言葉であり、「誰にとっても便利なデザイン」という考え方です。授業のユニバーサルデザイン研究会では、この考え方を授業に当てはめて「学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず、全員の子どもが楽しく『わかる・できる』ように工夫・配慮された通常学級における授業デザイン」としています。つまり、「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業は、特別な支援を要する児童生徒だけではなく、全ての児童生徒にとって『わかる・できる』授業につながると考えます。

## 〈平成26年度特命研究の成果と課題〉

平成26年度に取り組んだ特命研究では、「ユニバーサルデザイン」の視点を「環境の工夫」「組立ての工夫」「説明の工夫」「個人差への配慮」とし、全ての児童生徒が学びやすい授業づくりの在り方を探りました。小・中学校及び高等学校の授業において共通する有効な支援内容をチェックシートとしてまとめ、そのチェックシートの結果を基に「ユニバーサルデザイン」の視点に応じた支援

を取り入れた授業を実践することができました。しかし、チェックシートの使用は、授業実践前の 1 回のみでした。そのため、「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業づくりへの継続的な取組について、検討する必要性を感じました。

#### 〈研究のねらい〉

そこで、本研究では、チェックシートの使用方法を検討し、全ての児童生徒にとって学びやすい授業づくりの在り方を探りました。全ての児童生徒が学びやすい授業とは、平成26年度特命研究に基づき「障害の有無等にかかわらず、全ての児童生徒が、学習活動に参加している実感や授業内容を理解した達成感をもつことができる授業」とします。このような授業づくりの在り方を探り、教育現場に広く発信していくことで、教師の授業力向上や授業改善が図られ、全ての児童生徒にとって学びやすい授業づくりの推進につながると考えます。

### (3) 研究の目標

小・中学校の通常学級及び高等学校において、障害の有無等にかかわらず、全ての児童生徒にとって学びやすい授業づくりの推進を目指し、「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた具体的な支援の在り方を探る。

### (4) 平成26年度特命研究の成果と課題

#### ア 成果

- (ア) 全ての児童生徒が学びやすい授業づくりにつながるチェックシートの作成
  - a 先行研究を基に「ユニバーサルデザイン」の視点を、「環境の工夫」「組立ての工夫」「説明の工夫」「個人差への配慮」としました。小・中学校及び高等学校の授業において共通する有効な支援内容をチェックシートとしてまとめました。
- (イ) 「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた全ての児童生徒が学びやすい授業の実践
  - a 授業者は事前にチェックシートを記入することで、普段の授業での「ユニバーサルデザイン」の4つの視点の支援の傾向を意識したり、学習につまずきを感じている児童生徒の実態に気付いたりすることができました。チェックシートの結果を基に、これまでの授業であまり意識していなかった視点の支援や、実践する授業で意識したい支援、つまずきが予想される児童生徒に対して必要な支援を取り入れた授業案を検討することができました。
  - b 小学校2校、中学校2校、高等学校1校において、「ユニバーサルデザイン」の視点に応じた支援を取り入れた授業を実践することができました。
- (ウ) 「ユニバーサルデザイン」の視点に応じた具体的な支援例と支援の取り入れ方の提案
  - a 授業実践を基に、全ての児童生徒が学びやすい支援の具体的な支援例や、チェックシートを使用した支援の取り入れ方についてまとめました。
  - b 平成26年度特命研究のまとめとして、チェックシートの使い方、「ユニバーサルデザイン」の視点に応じた具体的な支援例等をWeb発信しました。

#### イ 課題

- (ア) 全ての児童生徒が学びやすい授業づくりの在り方を探るために、チェックシートの使用方法について検討する必要があると考えます。
- (イ) 全ての児童生徒が学びやすい授業づくりへの教師の意識の向上を図るために、本研究の実践内容の学校現場への発信について検討する必要があると考えます。

## (5) 研究方法

- ア 「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業づくりにつながるチェックシートの質問項目や使用方法の検討
- イ チェックシートを継続的に使用した授業実践及び有効性の検証
- ウ 「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業づくりをまとめたリーフレットの作成

## (6) 研究内容

- ア 全ての児童生徒にとって学びやすい授業づくりを考えるために作成したチェックシートの質問項目や使用方法について検討する。
- イ チェックシートを継続的に使用した授業を実践し、児童生徒及び授業者からの調査等を基に、全ての児童生徒の学びやすさにつながったかどうかを検証する。
- ウ 「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業実践を基に、全ての児童生徒にとって学びやすい授業づくりをまとめたリーフレットを作成する。

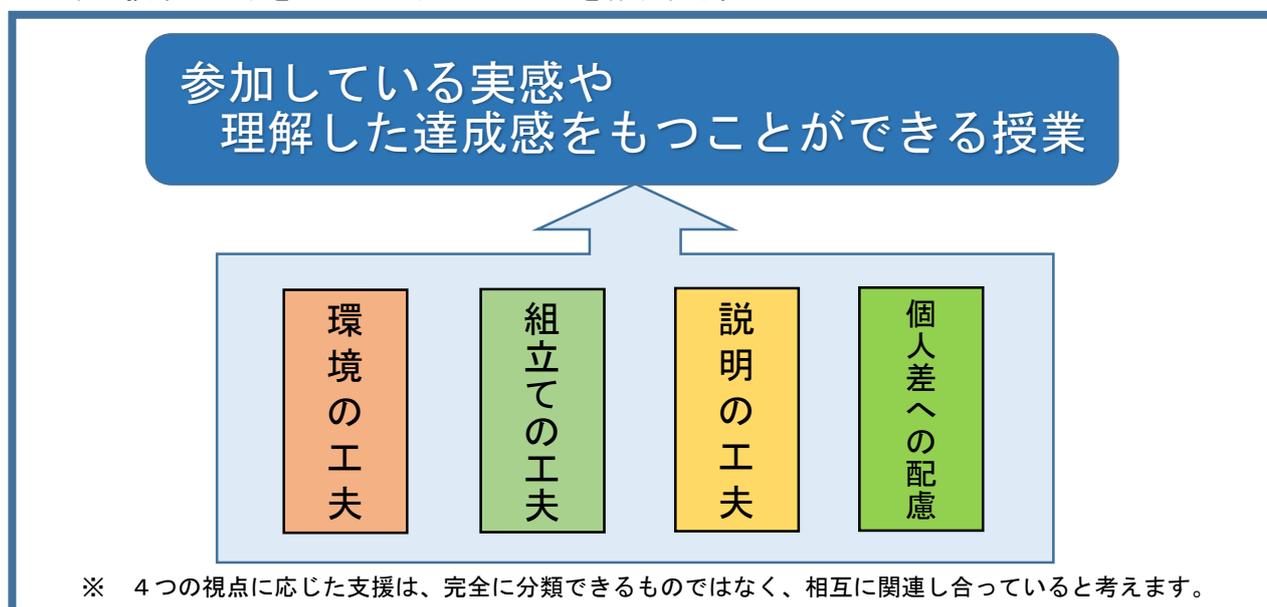


図1 本研究における「ユニバーサルデザイン」の4つの視点を取り入れた授業づくり

## 《引用文献》

- ・ 文部科学省 「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」 平成24年12月 p. 13
- ・ 文部科学省 「高等学校における特別支援教育の推進について－高等学校ワーキング・グループ報告－」 平成21年8月 p. 3
- ・ 授業のユニバーサルデザイン研究会HP <http://www.udjapan.org/concept.html>